

## はじめての歎異抄講座(4)

### 第二章

十余ヶ国：常陸（茨城）→下総（千葉）→武蔵（埼玉・東京）→相模（神奈川）  
→伊豆（静岡）→駿河（静岡）→遠江（静岡）→三河（愛知）→尾張{愛知}  
→伊勢（三重）→近江（滋賀）→山城（京都）→京都

往生極楽の道：阿弥陀仏の国に生まれる道。浄土に生まれ変わって永遠のいのちを得る方法。

法文：仏法を説いた文句、文書。

南都・北嶺：「南都」は奈良。東大寺や興福寺などの大寺を指す。「北嶺」は京都の比叡山。延暦寺を指す。いずれも学問中心の大寺院。

よき人：立派なすぐれた人。ここでは法然聖人を指す。

別の子細：特別なわけ。

浄土に生まるるたね：浄土にうまれる原因。仏教でいう「因果」の因。

地獄におつべき業：地獄に墮ちる原因。「業」は思想・行動・行為の総称。

すかされまいらされて：「すかす」はだます、たぶらかす。「まいらす」は謙讓の補助動詞。

一定：確実に。きっと。必ず。

#### 1. 第二章の背景

1) 善鸞事件

2) 四箇格言 「念仏無間、禪天魔、真言亡国、律国賊」

#### 2. 愚の宗教・・・自己の無智を知る

善導：「我等愚痴身」

法然：「愚痴の法然坊」「浄土門の人は愚痴にかへりて往生す」

親鸞：「愚禿親鸞」「愚身」

**末法悪世のかなしみは 南都北嶺の仏法者の**

**興かく僧達力者法師 高位をもてなす名としたり**（『正像末和讃』）

3. 親鸞におきては、ただ念仏して弥陀にたすけられまゐらすべしと、よきひとの仰せをかぶりて、信ずるほかに別の子細なきなり。

**建仁辛酉の暦、雑行を棄てて本願に帰す**（『教行信証』）

- ・五正行：読誦、観察、礼拝、称名、讚嘆供養

※このなかで「称名」が正定業。他は助業。

**弥陀の本願と申すは、名号をとんものば極楽へ迎へんと誓はせたまひたるを、ふかく信じてとなふるがめでたきことにて候ふなり。信心ありとも、名号をとんへざらんは詮なく候ふ。また一向名号をとんふとも、信心あさくは往生しがたく候ふ。**（『親鸞聖人御消息集』）

- 4. 念仏は浄土の因か、地獄の因か、総じて存知せず

- 5. いつれの行もおよびがたき身なれば、地獄一定すみかぞかし

**五濁悪世の有情の 選択本願信ずれば  
不可称不可説不可思議の 功德は行者の身にみたり**（『正像末和讃』）

**念仏には無義をもつて義とす。不可称不可説不可思議のゆゑに**  
（『歎異抄』第十章）

- 6. 信仰の本源は弥陀の本願

- 7. 念仏をとるとも、すてんとも、面々の御はからいなり

## 第二章全体の構成

- ① 関東からはるばるこられてお尋ねになる往生極楽の道について、私は、念仏以外の道も法文等も知りません。
- ② 親鸞においては、よき人のお言葉をうけて、ただ念仏するしかありません。
- ③ いかなる行もおよび難い私にとって、もし法然聖人にだまされて、念仏して地獄に堕ちたとしても後悔しません。法然聖人を信じての念仏の行です。
- ④ 阿弥陀如来が真実なら、善導、法然と伝わってきた教えに間違いはありません。
- ⑤ 以上申し上げたのは私の信心であり、みなさんひとり一人のお考えで取捨してください。